

第42回水の週間実施報告書



平成30年11月

水の週間実行委員会

第 42 回水の週間中央行事は、後援機関及び協賛団体の

皆様のご支援・ご協力により開催されました。

主催機関

水循環政策本部	国土交通省	東京都
水の週間実行委員会		

後援機関

文部科学省	厚生労働省	農林水産省
経済産業省	環境省	独立行政法人 水資源機構
公益財団法人 日本科学技術振興財団	日本放送協会	一般社団法人 日本新聞協会

協賛団体（五十音順）

公益財団法人 河川財団	一般財団法人 河川情報センター	一般社団法人 建設広報協会
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会	一般財団法人 国土技術研究センター	一般財団法人 砂防・地すべり技術センター
一般財団法人 砂防フロンティア整備推進機構	一般財団法人 水源地環境センター	石油連盟
一般社団法人 セメント協会	一般社団法人 全国建設業協会	公益社団法人 全国建築物飲料水管理協会
一般財団法人 ダム技術センター	一般社団法人 ダム・堰施設技術協会	電気事業連合会
一般社団法人 日本埋立浚渫協会	一般社団法人 日本ガス協会	一般社団法人 日本橋梁建設協会
一般社団法人 日本経済団体連合会	一般社団法人 日本建設機械施工協会	一般社団法人 日本建設業連合会
一般財団法人 日本建設情報総合センター	一般社団法人 日本水道工業団体連合会	日本製紙連合会
一般社団法人 日本鉄鋼連盟	一般社団法人 日本電機工業会	一般社団法人 日本ホテル協会
一般社団法人 日本林業土木連合協会	一般社団法人 日本レストラン工業会	ビール酒造組合
公益財団法人 リバーフロント研究所		

水の週間実行委員会委員団体

全国水土里ネット	公益社団法人 日本水道協会	公益財団法人 利根川・荒川水源地域対策基金
一般財団法人 造水促進センター	全国簡易水道協議会	一般社団法人 日本治山治水協会
公益社団法人 日本下水道協会	公益社団法人 土木学会	公益社団法人 日本河川協会
一般財団法人 日本ダム協会	公益社団法人 農業農村工学会	一般社団法人 日本工業用水協会
独立行政法人 水資源機構	特定非営利活動法人 日本水フォーラム	

(目 次)

第 42 回「水の週間」の開催にあたり	3
第 42 回「水の週間」行事の概要	5
水の週間中央行事「水を考えるつどい」	6
水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	9
平成 30 年度水資源功績者表彰	16
第 40 回全日本中学生水の作文コンクール	18
一日事務所長体験	21
第 33 回水とのふれあいフォトコンテスト	22
上下流交流活動	26
国・地方公共団体等における取り組み例	30
第 42 回水の週間新聞等報道状況	38
「水の週間」実施経過	40
水の週間実行委員会について	43

※表紙の写真は、第 33 回水とのふれあいフォトコンテストグランプリ「あぜ道」：大社正照氏
※表紙のロゴマークは、平成 27 年に選定された「健全な水循環」に関するロゴマーク

「水の日」及び「水の週間」について

昭和 52 年 5 月 31 日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年 8 月 1 日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することとしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている 8 月の月上旬が適当であるので、その初日である 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

水循環基本法（平成 26 年法律第 16 号）

第十条 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

2 水の日は、八月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

平成 26 年 7 月 1 日に水循環基本法が施行され、8 月 1 日は、国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解や関心を深める日として、法律で定められた「水の日」となりました。

第 42 回「水の週間」の開催にあたり



水の週間実行委員会 むしあけかつみ 会長

挨拶に先立ちまして、この度の西日本を中心とした全国的な豪雨によってお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、各地で豪雨被害を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

第 42 回目の「水の日」及び「水の週間」を迎え、本日ここに、「水を考えるつどい」を開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず初めに、本年度の水の日・水の週間行事の開催にあたり、ここにご列席の皆様の格別のご理解とご協力を賜りましたことを、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

昭和 52 年に「水の日」「水の週間」の取り組みが始まっておよそ 40 年が経過いたしました。その間、我が国ではソフト・ハードの両面からなる様々な対策を講じた結果、水問題について相当程度の改善を進めることができました。しかしながら、ここ数年を振り返りましても毎年のように水災害が生じている状況にあります。

先月の西日本を中心とした豪雨による被害は記憶に新しいところですが、昨年 7 月の九州北部豪雨、平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨による鬼怒川破堤氾濫、その前年の広島市の豪雨による土砂災害など、水害というのは、人々の暮らしを根こそぎ破壊するものであり、引き続き被害を軽減する対策への努力が肝要です。

一方で、水不足、渇水についても、度々発生しています。本年は、西日本では深刻な水害が生じている一方で、利根川水系では渇水が懸念されています。幸いなことにこの週末の台風 12 号の雨により、回復傾向を見せていますが、首都圏の都市用水、関東平野の農業用水は、利根川、荒川水系のダム群、武蔵水路、利根川河口堰、北千葉導水等の広域ネットワークにより支えられており、一昨年と昨年も、その運用により首都圏の渇水による影響を軽減する役割を果たしていたことを忘れてはなりません。ただ、再来年の東京オリンピックとパラリンピック、真夏の水需要が最も多い時期に、国内外から首都圏に多数の観客が集中してさらに水需要が増大する、この重要な国際イベントを水の不安なくやり遂げることができるのかどうかについて点検し、万が一にでも、水不足にはしない備えをしておく必要があると思います。

世界に目を向けてみますと、昨年 12 月にはミャンマーにおいて、アウンサン・スーチー国家顧問参加のもと、第 3 回アジア・太平洋水サミットが開催され、水関連災害に対する投資を倍増させるこ

となどを述べた「ヤンゴン宣言」が採択されました。この成果は、本年3月にブラジリアで開催されました第8回世界水フォーラムにおいてもアジア・太平洋地域からの声として全世界に発信されました。さらには、同フォーラムへは日本より皇太子殿下が御臨席され、「水と災害」ハイレベルパネルにおいて、「繁栄・平和・幸福のための水」と題する基調講演を行われました。皇太子殿下におかれましては、複雑で他分野にわたる水問題の改善のためには、包括的な取り組みを行うことが重要であると述べられました。このように、水問題は、世界的な課題として認識されており、水問題の改善のための動きが世界的にも加速化しています。

このような状況を踏まえ、本年の「水の日」「水の週間」においては、健全な水循環の重要性、水資源の有限性、水資源開発・管理の重要性、水の恵みと脅威について、国民の皆様に広く理解と関心を深めていただき、今後水に関する防災や減災、持続可能な水利用の確保、さらには世界の水問題の改善、水インフラ整備の国際的展開、並びに我が国の今後の技術開発等といった取り組みにもつなげていけるよう、水循環政策本部、関係府省や都道府県等と連携し、全国で様々な取り組みを積極的に展開して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に、これから表彰されます、「全日本中学生水の作文コンクール」において優秀な成績を収められた方々に対して心からお祝い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

平成30年8月1日

水の週間実行委員会会長 虫明 功臣

第42回「水の週間」行事の概要

行 事	実 施 内 容	主 催 者 等
水の週間中央行事	1. 水を考えるつどい 日時:平成30年8月1日(水) 14:00～17:15 場所:イイノホール(東京都千代田区) 内容: ①主催者挨拶 ②第40回全日本中学生水の作文コンクール表彰式 ③上記作文コンクール最優秀賞受賞者による作文朗読 ④基調講演(大分県日田市長 原田啓介) ⑤パネルディスカッション(青山佳世、金沢緑、佐藤克英、温井浩徳、原田啓介、宮林茂幸、山田健) 2. 水のワークショップ・展示会 日時:平成30年8月14日(火)～16日(木) 10:00～17:00 場所:東京国際フォーラム(ガラス棟G701会議室) 内容:「教えて!水のこと!～水の大辞典～」をテーマに、小学生の親子を対象として、水にまつわる様々なワークショップやパネル展示を実施。	主催:水循環政策本部 国土交通省 東京都 実行委員会(注) 後援:文部科学省、厚生労働省 農林水産省、経済産業省 環境省、(独)水資源機構、 (公財)日本科学技術振興財団、日本放送協会、 (一社)日本新聞協会
平成30年度水資源功績者表彰	水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人並びに団体に対して、国土交通大臣表彰を授与。	主催:国土交通省
第40回全日本中学生水の作文コンクール	「水について考える」をテーマとして、中学生を対象に水の作文コンクールを実施。 都道府県の各地方審査等を経た作品を中央審査会で審査し、優秀作品に対して最優秀賞(内閣総理大臣賞)等を授与。	主催:水循環政策本部、国土交通省、都道府県 後援:文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、全日本中学校長会、(独)水資源機構、実行委員会
一日事務所長体験	全日本中学生水の作文コンクール優秀賞以上の受賞者の内、希望する者について在住地近隣の関係機関の事務所等において一日事務所長体験を実施。	
第33回水とのふれあいフォトコンテスト	健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する写真作品(例:「生命を支え、育む水」、「ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの」、「くらしの中の水」、「歴史とともにある水の風景」)を募集し、フォトコンテストを実施。優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与。 また、若年層も含めてより広く作品を募集するSNS部門コンテストを実施。優秀作品に対して、各賞を授与。	主催:実行委員会 後援:国土交通省、東京都 (独)水資源機構
上下流交流事業実施団体への助成	水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性についての啓発や、ダム水源地域の振興に資する上下流住民の連携に関する活動を行う団体等に対し、助成を実施。	主催:実行委員会
施設見学会	ダムや浄水場などの水資源開発施設の見学会を各都道府県並びに(独)水資源機構等において実施。	主催:都道府県、(独)水資源機構ほか
その他	・全国各地で①講演会、②展示会など多彩な催しを実施 ・ポスターの配布・掲示	

(注)「実行委員会」とは、「水の日」・「水の週間」の趣旨に賛同し、政府による「水の週間」の各種の啓発活動と一体となった諸行事を積極的に実施することを目的として、水に関係の深い団体により設立された「水の週間実行委員会」を指すものです。

水の週間中央行事「水を考えるつどい」



平成30年8月1日（水）、イイノホール（東京都千代田区）において、「水を考えるつどい」（主催：水循環政策本部、国土交通省、東京都、水の週間実行委員会）が開催され、およそ400名の方々にご来場いただきました。

主催者側から、石井啓一国土交通大臣・水循環政策担当大臣、中島高志東京都都市整備局理事及び虫明功臣水の週間実行委員会会長が挨拶し、その後、「第40回全日本中学生水の作文コンクール」の表彰式が行われました。最優秀賞（内閣総理大臣賞）には、写生のために訪れた釜房ダムの湖のほとりで、海外旅行での体験と震災での恐ろしい水の記憶を思い起こしながらも、水の恵みを再認識し、ダム湖に沈んだ町の人々に思いを寄せ、現在の水環境を未来に残したいと綴った井崎英里さんの作文が選ばれ、賞状授与後に受賞作文の朗読が披露されました。

休憩を挟んで、原田啓介大分県日田市長による基調講演と、その後、原田市長に加えて、フリーアナウンサーの青山佳世氏、関西福祉大学の金沢緑教授、横浜市水道局水源林管理所の温井浩徳所長、東京農業大学の宮林茂幸教授、サントリー株式会社の山田健チーフスペシャリスト、水循環政策本部事務局の佐藤克英事務局長の7名により、パネルディスカッションが行われ、流域が抱える課題を捉えて様々な取組を継続的に実施することで、経済や水の循環を健全にすることの重要性等について発信され、盛況のうちに終了しました。

◆主催者挨拶



石井啓一国土交通大臣
・水循環政策担当大臣



中島高志東京都都市整備局理事



虫明功臣水の週間実行委員会会長

◆第40回全日本中学生水の作文コンクール最優秀作文披露



最優秀賞 井崎 英里さん
(宮城県仙台二華中学校3年)

◆第40回全日本中学生水の作文コンクール 受賞者集合写真



◆基調講演



原田啓介大分県日田市長
「流域の暮らしを支える水の郷をもっと豊かに」

◆パネルディスカッション



左より、青山佳世氏、佐藤克英氏、温井浩徳氏、宮林茂幸氏、山田健氏、原田啓介氏、金沢緑氏

◆入賞作品等の展示



第40回全日本中学生水の作文コンクール



第33回水とのふれあいフォトコンテスト



明治150年記念展示

「明治水維新～水の近代化と日本の近代化～」

水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」

平成 30 年 8 月 14 日（火）から 16 日（木）までの 3 日間、東京国際フォーラム（東京都千代田区）が開催する「丸の内キッズジャンボリー2018」に参加し、この中で「水のワークショップ・展示会」を開催しました。

「教えて！水のこと！～水の大辞典～」をテーマに、小学生の親子を対象として、今年も多く、多くの組織、団体により、水にまつわるワークショップ形式の催し並びにパネル展示及びブース出展が行われ、子供たちに水の大切さをより深く知っていただく機会としました。なお、開催期間中には、1,300 名を超える方々にご来場いただきました。

〈丸の内キッズジャンボリーとは〉

2007 年に東京国際フォーラムの開館 10 周年記念事業としてスタート。子供たちへの未来への夢を育む参加・体験型イベントは、丸の内の夏の風物詩として定着。参加した企業、団体、行政機関、NPO 法人などは 100 を超える。2018 年は延べ約 11 万 8 千人が参加。

◆展示会テーマ 「教えて！水のこと！～水の大辞典～」

【ワークショップ】

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 「森林の働きとおいしい水」 | 【一般社団法人 日本治山治水協会】 |
| 「水道キャラバン 2018 ～東京の水道を学ぼう～」 | 【東京都水道局】 |
| 「クイズと実験で雨と水のふしぎを知ろう！」 | 【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】 |
| 「気象キャスターが教えます！ 雲や雨のお話」 | 【特定非営利活動法人 気象キャスターネットワーク】 |
| 「すごいな！ いのち育てる農業用水」 | 【公益社団法人 農業農村工学会／全国水土里ネット】 |
| 「でまえ授業 ～みんなの下水道～」 | 【東京都下水道局】 |

【展示等出展団体】

- ・ 東京都水道局
- ・ 国土交通省水管理・国土保全局下水道部／東京都下水道局／GKP（下水道広報プラットフォーム）
- ・ 一般社団法人 ダム工学会／ダム工事総括管理技術者会
- ・ 公益社団法人 農業農村工学会／全国水土里ネット
- ・ 一般社団法人 日本治山治水協会
- ・ 国土交通省 関東地方整備局
- ・ 巧水（たくみ）スタイル推進チーム
- ・ 特定非営利活動法人 日本水フォーラム
- ・ 独立行政法人 水資源機構

「ワークショップ」



【一般社団法人 日本治山治水協会】 森林の働きとおいしい水

森林に降った雨はどこに流れていくのか、森林が育んだ水はなぜおいしいのかなどについて学習。また、3種類の森林の水（ミネラルウォーター）の試飲を行い、味の違いを体験。



【東京都水道局】 水道キャラバン 2018 ～東京の水道を学ぼう～

東京都の管理する様々な水道施設を、映像を通じて見学。安全でおいしい水道水ができるまでの取り組みなどを実験も交えて学習。



【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】 クイズと実験で 雨と水のふしぎを知ろう！

体を動かすクイズや雨水を使ったミニ実験を交えて、くらしの中の水のめぐりや、意外と知らない雨の性質を学習。



【特定非営利活動法人

気象キャスターネットワーク】

気象キャスターが教えます！

雲や雨のお話

大雨などの自然災害から身を守るにはどうすればいいか、テレビで活躍中の気象キャスターが、クイズや実験を交えて、親子で楽しく学習。



【公益社団法人 農業農村工学会／全国
水土里ネット】

すごいな！いのち育てる農業用水

※運営

東京大学水利環境工学研究室

宇都宮大学農学部生産環境工学講座

東京農工大学水利環境保全学研究室

田んぼや畑にとって大切な農業用水の役割について、大学生による出前授業、ゲームやクイズを通じて学習。

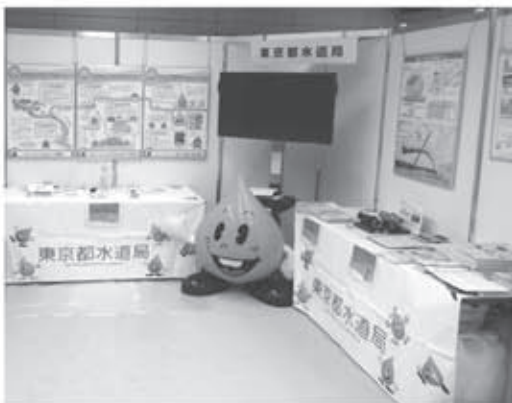


【東京都下水道局】

でまえ授業 ～みんなの下水道～

「トイレットペーパー実験」、「沈でん実験」、「雨水ます実験」の3つの実験を通じて下水道の役割などについて学習。

「展 示 会」



【東京都水道局】

水道水の安全性及び安全確保の取り組みや水道水源林の働きについて、パネルやオゾン処理の実験装置等を用いて紹介。



【国土交通省水管理・国土保全局下水道部 ／東京都下水道局／GKP（下水道広報 プラットフォーム）】

下水道のしくみや役割、微生物などを紹介したパネル展示を実施。また、下水をきれいにするために重要な役割を持つ微生物を顕微鏡で観察。





【一般社団法人 ダム工学会／ダム工事
総括管理技術者会】

「本物・手作り・参加型」を基本に水力発電模型の実演やダムクイズなどを通して、来場者の疑問にダム博士が答えると共に、ダムへの正しい理解や知識についての啓発活動を実施。



【公益社団法人 農業農村工学会／全国
水土里ネット】

いのちを育む水の恵みや、農業を通じて育まれる文化や農村環境についてパネルで展示。また、水辺の生き物の展示やタブレット端末を活用した学習ゲームを実施。





【一般社団法人 日本治山治水協会】

森林が育む水について理解を深めてもらうため、森林の働き等をパネルで紹介。また、全国各地の森林（もり）の水（ペットボトル）の展示や各地の水を飲み比べる「利き水」を実施。



【国土交通省関東地方整備局】

国土交通省関東地方整備局が管理している河川やダムにおけるインフラツーリズムの取り組みについて紹介。



【巧水（たくみ）スタイル推進チーム】

「巧水（たくみ）スタイル」とは、賢く水を使う社会ということ。普通に生活をする中でこんなにも簡単に水を賢く使うことができるのだということをパネルで紹介。



【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】

「打ち水やってみよう」をキーメッセージに展開する“打ち水大作戦 2018”をPRするパネル展示を実施。



【独立行政法人水資源機構】

専用ゴーグル使って、ダムの高さや大きさを体感してもらうVR鑑賞のほか、ダムの役割に関するパネル展示を実施。



平成 30 年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、水源地域の振興、水環境の保全、水源涵養、水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことなど、特に顕著な功績のあった個人及び団体が、水資源功績者として表彰されました。表彰式は平成 30 年 8 月 3 日（金）に国土交通省特別会議室において執り行われ、石井啓一国土交通大臣から表彰状が授与されました。

〔個人〕 1 名

受賞者	功績概要
名古屋 保男 (新潟県)	刈谷田川土地改良区の役員として、水管理の合理化を図るために灌漑排水施設の整備等を推進し、水資源の有効活用に貢献された。

〔団体〕 4 団体

受賞者	功績概要
十和田市名水保全対策協議会 (青森県)	十和田市にある名水地（湧水）の水辺環境整備や水質保全活動を実施。地元小学生を対象に名水地の自然環境体験学習を行うなど、水環境の大切さについて普及啓発活動に取り組んでいる。
南紀用水土地改良区 (和歌山県)	小学生を対象にした水の大切さや環境保全に関する啓発活動や、地域住民と連携したダム周辺の活性化を行うなど、水資源の保全等に貢献された。
特定非営利活動法人 新町川を守る会 (徳島県)	吉野川源流の高知県大川村において水源林の植樹を続けるとともに、水源林の管理や水源地域との上下流交流など、水源地域の保全等に尽力された。
富士フイルム九州株式会社 (熊本県)	雨水の再利用による地下水使用量の削減などに取り組むとともに、南阿蘇村に水源涵養林を整備するなど、地下水資源や水源地の保全に貢献された。



平成30年度水資源功績者表彰 受賞者集合写真

第 40 回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外日本人学校在学の日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「第 40 回全日本中学生水の作文コンクール」を開催し、本年は 314 校より総数 14,151 編の応募がありました。各都道府県の地方審査、中央審査会の審査等により、最優秀賞 1 編、優秀賞 8 編及び入選 32 編（P20 参照）が選ばれました。表彰式は平成 30 年 8 月 1 日（水）にイイノホールで開催された「水を考えるつどい」にて執り行われ、最優秀賞受賞者に石井啓一国土交通大臣・水循環政策担当大臣から、優秀賞の各受賞者に平木大作経済産業大臣政務官、笹川博義環境大臣政務官ほか、関係機関代表者から賞状が授与されました。

(1) 主催等

主 催：水循環政策本部、国土交通省、都道府県

後 援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、
水の週間実行委員会、独立行政法人水資源機構、全日本中学校長会

(2) 募集要領

①テ ー マ：「水について考える」（題名は自由）

②原 稿：400 字詰原稿用紙 4 枚以内

(3) 中央審査会審査委員 ※ 50 音順、敬称略 審査当時

枝村 晶子 （全日本中学校長会編集部部長）

小川 祥直 （経済産業省経済産業政策局地域経済産業グループ地域産業基盤整備課長
：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

是澤 裕二 （厚生労働省医薬・生活衛生局水道課長
：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

坂本 修 （国土交通省大臣官房審議官：内閣官房水循環政策本部事務局審議官）

須磨 佳津江（キャスター）

玉野井 晃 （公益社団法人 日本水道協会調査部長）

富岡 誠司 （独立行政法人水資源機構理事）

長崎 宏子 （スポーツコンサルタント）

宮崎 敏行 （農林水産省農村振興局整備部水資源課長
：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

渡邊 康正 （環境省水・大気環境局水環境課長：内閣官房水循環政策本部事務局参事官）

※ 受賞者集合写真については P7 をご覧ください。

内閣総理大臣賞（最優秀賞）

時をこえて ～未来へ～

雪どけを迎えた春、私は「ダムより高い鯉のぼり」の記事を新聞で見つけ、釜房ダムを訪ねました。目の前に広がる森と湖。優雅に泳ぐ鯉のぼり。そんな美しい春の景色を、一枚の風景画として残したいと思ったからです。

釜房ダムとは、私の住む仙台市より西の、宮城県のほぼ中央を流れる名取川の支川、碁石川上流の川崎町という小さな町に作られた特定多目的ダムです。上流の太郎川、北川、前川より集められた水は、ダムによる釜房湖となり、私が訪ねた日も、湖いっぱい満たされた水一面が、遙か遠くは瑠璃色に、時々太陽の光を浴びて金色に輝いて見えました。ダムを囲むように連なる山々の緑、春を知らせる満開の桜の淡い紅色、ダムゲートから流れ出るしろかね色の水、そんな風景画のような世界の大空を、大きな鯉のぼりがのびのびと泳いでいました。これが私の国、日本の水の源であり、この地球が「水の惑星」と呼ばれる由縁なのでしょう。

世界には、水資源に恵まれていない国が数多くあると聞いています。水の惑星と呼ばれる地球であっても、利用可能な淡水の割合は極わずかで、ほとんどが海水、私たち人間をはじめ、あらゆる生物が生きるために使える水ではないのです。

この三月に訪ねたシンガポールもまた、水問題を抱えた国の一つでした。赤道直下に位置し、年中気温と湿度が高く、降水量も多い国であるのに、狭い国土には大きな河川も雨水を貯める土地もありません。さらには国土自体の保水力も乏しいことから、飲み水のほとんどを隣国からの輸入に頼っていると聞きました。飲み水が手に入らないわけではないのですが、滞在初日に、蜜柑色をした三〇ミリリットルのボトルを渡され、滞在期間中は、毎朝このボトルに水を入れて持たされることとなりました。水を贅沢に使う観光が有名な都市の、現実の水問題に私は

宮城県 宮城県仙台二華中学校 三年 井崎 英里

強い衝撃を受け、いつも以上に水を大切にいただくように心がけました。シンガポールの水事情を思い出しながら、私は自分の国である日本のことを考えました。日本には四季があり、梅雨や秋雨の影響で、一年の降水量に大きな変化はあるものの、世界的に見れば、恵まれた水環境のはずです。自宅にも学校にも、街のいたる所に水道が引かれ、その蛇口をひねれば、水やお湯がすぐに流れ出ます。そのため、私たち日本人は、いくらでもあるもののたとえに「湯水の如く」と使うのです。果たして水は、本当にいくらでもあるものなのでしょうか。

私の忘れかけていた記憶、忘れようとしている記憶「東日本大震災」。小学校一年生も終わろうとしている春のあの日まで私は、水のない生活をしたことも、考えたこともありませんでした。蛇口から水の出ない日々、やっと水を手にできた時の喜びを、私は忘れられません。空から容赦なく降る雪も、沿岸の町を襲った津波もまた、水の別な姿であることが恨めしく、未来の見えない不安に誰もが涙を流した日々。時間という魔法が、少しずつ人々の心を癒やしてくれてはいるものの、何かを皮切りとし、水の隠された本性、恐ろしい姿を度々思い出すのです。

あの日から、水に対する私たちの見解は確実に変わりました。水を大切にすると同時に、いつの日か再び変貌する水の姿に警戒し、備えるための訓練が続いています。

釜房湖の美しい水を眺めながら、ふと、かつてのこの湖の下に存在した豊かな耕地の広がる小さな町のことを考えました。そこに暮らしていた人々の思いと、今、目の前に広がる美しい湖とダムが、現在の私たちに不自由なく水を提供しているという現実をです。

残すべき水の歴史は、震災だけではありませんでした。今日見たこの美しい風景を、私は過去と共に未来へ描き残したいと思います。

第40回全日本中学生水の作文コンクール入賞者一覧

賞名	都道府県名	作文の題名	ふりがな氏名	学年	学校名
最優秀賞 内閣総理大臣賞	宮城県	時をこえて～未来へ～	いざき 英里 井崎 英里	3	宮城県仙台二華中学校
優秀賞 厚生労働大臣賞	愛知県	水道水が手元に届くまで	まの 真野 そうま 聡真	1	扶桑町立扶桑中学校
優秀賞 農林水産大臣賞	鹿児島県	水の恩恵	まつくぼ こと 松久保 幸来	2	学校法人津曲学園 鹿児島修学館中学校
優秀賞 経済産業大臣賞	愛媛県	めぐる一筋の水	もり はると 森 温大	2	今治市立近見中学校
優秀賞 国土交通大臣賞	山梨県	源流の里から未来をつくる	ふるや りな 古谷 梨那	1	小菅村立小菅中学校
優秀賞 環境大臣賞	岩手県	室根の里から海をおもう	すがわら なお 菅原 菜央	3	岩手県立一関第一高等学校附属中学校
優秀賞 全日本中学校長会会長賞	愛知県	豊川の清掃活動から水について考える	わたなべ ふうか 渡辺 風花	3	豊橋市立章南中学校
優秀賞 水の週間実行委員会会長賞	群馬県	今も昔も	わだ なのか 和田 菜花	3	群馬大学教育学部附属中学校
優秀賞 独立行政法人水資源機構理事長賞	福岡県	「ありふれた水に思う一二つの感謝」	うの ゆりこ 宇野 由里子	2	福岡教育大学附属福岡中学校
入選（32編）	福島県	水へ感謝	いまむら まお 今村 真生	1	福島県立会津学鳳中学校
	福島県	水と生命	にへい さえ 二瓶 紗英	3	矢吹町立矢吹中学校
	茨城県	『水』一私なりに考えたこと	ひろせ とわこ 廣瀬 十和子	2	筑西市立下館中学校
	栃木県	ふるさとの川	はこだ ひゆり 箱田 絢優璃	2	矢板市立矢板中学校
	栃木県	水と共に	かわさき ももえ 川崎 桃枝	2	矢板市立矢板中学校
	埼玉県	みちびき	おおさわ ももえ 大澤 百恵	3	秩父市立尾田蒔中学校
	埼玉県	見沼代用水路と私	すなかわ ゆみこ 砂川 友美子	3	浦和ルーテル学院中学校
	東京都	ワクワクして水の課題に取り組む	はら なな か 原 奈々佳	2	新宿区立新宿西戸山中学校
	神奈川県	井戸から考えた水の大切さ	さとう みすず 佐藤 美鈴	2	洗足学園中学校
	神奈川県	永遠に水と暮らしていくには	ほんだ みなみ 本多 みなみ	3	聖ヨゼフ学園中学校
	山梨県	未来を支える農業用水	うえの さくら 上野 桜	3	北杜市立甲陵中学校
	山梨県	今の僕たちの使命	いけだ あゆむ 池田 歩夢	3	北杜市立甲陵中学校
	山梨県	繋がる節水	ひろせ ゆい 廣瀬 結	2	小菅村立小菅中学校
	静岡県	水の災害のバトンは渡っているのか	てらかど りんね 寺門 鈴音	2	不二聖心女子学院中学校
	三重県	水と人との深い関わり	すぎやま なつみ 杉山 なつみ	1	高田中学校
	三重県	「生命を育む水を大切にしよう」	まえだ あずみ 前田 あずみ	2	高田中学校
	滋賀県	自分たちの力で琵琶湖を守る	さの つばさ 佐野 翼	3	大津市立日吉中学校
	京都府	私の水零屋 すいきんくつ	まえだ あおい 前田 あおい	3	京都学園中学校
	大阪府	私と母のクリーン作戦	やの ななみ 矢野 七海	2	高槻中学校
	兵庫県	日本の水技術を世界へ	あさみ みひろ 浅見 美裕	3	滝川第二中学校
	兵庫県	水を大切に理由	もりぐち なつみ 森口 夏海	3	滝川第二中学校
	岡山県	水を立体的にとらえる	いなだ ちはる 稲田 知陽	3	岡山市立吉備中学校
	徳島県	お茶の甘さ	まつお つばさ 松尾 つばさ	2	阿南市立那賀川中学校
	徳島県	吉野川と共に生きる	でぐち りこ 出口 莉子	3	阿波市立吉野中学校
	香川県	節水チャレンジ	ながお たくみ 長尾 拓実	2	高松市立龍雲中学校
	熊本県	私達を守る命の源	ひろおか りな 廣岡 里奈	2	熊本大学教育学部附属中学校
	熊本県	未来の水へ、私達にできること	はしもと さき 橋本 咲喜	1	真和中学校
	宮崎県	水が織りなす自然と文化の継承	たかじ もえ 高司 萌恵	3	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校
	鹿児島県	中学生の僕の小さな一歩	まつもと かずま 松元 一真	3	鹿児島市立坂元中学校
	沖縄県	水と共に生きる	いけま のん 池間 暖	3	宮古島市立砂川中学校
	沖縄県	水を大切に知恵に学ぶ	みやざと れいな 宮里 怜奈	3	栗国村立栗国中学校
	インドネシア共和国	水のイメージ	ほ いずみ 保泉 まどか	3	ジャカルタ日本人学校

一日事務所長体験

全日本中学生水の作文コンクールの優秀賞以上の受賞者を在住地近隣の国土交通省の事務所に招待し、一日事務所長体験として職場体験が実施されました。本年度は、優秀賞以上の受賞者4名が以下のとおり一日事務所長を体験しました（実施日順）。

○受賞者名 宮城県仙台二華中学校
井崎 英里さん
最優秀賞（内閣総理大臣賞）
実施日 平成30年8月24日（金）
実施事務所 国土交通省東北地方整備局
釜房ダム管理所



○受賞者名 学校法人津曲学園鹿児島修学館中学校
松久保 幸来さん
優秀賞（農林水産大臣賞）
実施日 平成30年8月24日（金）
実施事務所 国土交通省九州地方整備局
鶴田ダム管理所



○受賞者名 今治市立近見中学校
森 温大さん
優秀賞（経済産業大臣賞）
実施日 平成30年8月24日（金）
実施事務所 国土交通省四国地方整備局
松山河川国道事務所
石手川ダム管理支所



○受賞者名 扶桑町立扶桑中学校
真野 聡真さん
優秀賞（厚生労働大臣賞）
実施日 平成30年8月30日（木）
実施事務所 国土交通省中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所



第33回水とのふれあいフォトコンテスト

主催等 主催 水の週間実行委員会
 後援 国土交通省、東京都、独立行政法人水資源機構
 協賛 富士フイルムイメージングシステムズ（株）

募集作品 健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する作品

例) ・生命を支え、育む水 ・暮らしの中の水
 ・ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの
 ・歴史とともにある水の風景 など

○カラープリント部門

募集期間 平成30年4月26日（木）～6月15日（金）

応募状況 総計 1,956点

審査員（敬称略 審査当時）

中谷 吉 隆（写真家）	坂 本 修（国土交通省大臣官房審議官）
内 田 勲（写真家）	佐 藤 伸 朗（東京都都市整備局長）
筑紫 ゆうな（切り絵作家）	永森 栄次郎（水の週間実行委員会運営委員長）

○SNS部門

募集期間 平成30年7月4日（水）～8月31日（金）

応募状況 総計 1,335点

審査員（敬称略 審査当時）

詩 歩（Shiho）（「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」プロデューサー）
ひきたよしあき（株式会社博報堂クリエイティブプロデューサー）
坂 本 修（国土交通省大臣官房審議官）



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

【カラープリント部門受賞作品】

〔グランプリ〕 1名

○ 国土交通大臣賞

「あぜ道」

たいしゃ まさてる
大社 正照（鹿児島県）



〔優秀賞〕 3名

○ 東京都知事賞

「都心の氷点下の美」

すずき けんじ
鈴木 健之（東京都）



○ 水の週間実行委員会会長賞

「アスリート」

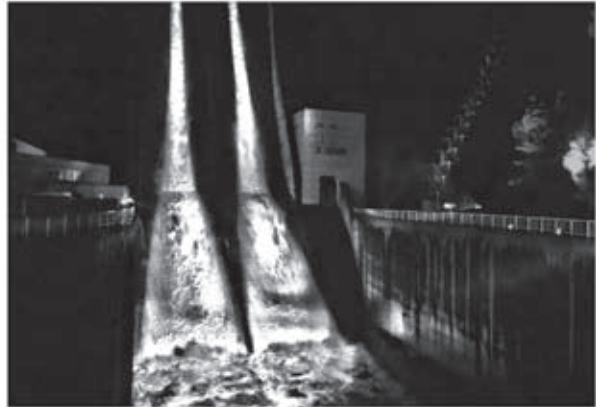
おかざき ひろこ
岡崎 祐子（岡山県）



○ 独立行政法人水資源機構理事長賞

「観光ナイト放流」

しみず すすむ
清水 進 (神奈川県)



〔特別賞〕 1 名

○ 審査員特別賞

「風と波のジュエリーアイス」

しらやま けんえつ
白山 健悦 (青森県)



〔特 選〕 5 名

「激走輝く」	かしわだて けん 柏 舘 健	(福島県)
「キャニオング」	おおおか まさひと 大岡 雅人	(群馬県)
「清流くだり」	むかい しょうじ 向井 章二	(兵庫県)
「虹に横たう」	わたなべ こうじ 渡邊 興次	(宮城県)
「笹の葉サラサラ」	いしかわ けんいち 石川 賢一	(高知県)

〔入 選〕 10 名

「大都会を流れる」	すずき かつや 鈴木 克哉	(神奈川県)	「ボクも泳ぐ」	ひろせ やすゆき 廣瀬 靖之	(大阪府)
「夏の思い出」	の と まさとし 能登 正俊	(東京都)	「緑の風に揺られて」	の がわ しんや 能川 慎弥	(神奈川県)
「水と遊ぶ」	おおた ひろし 太田 洋之	(東京都)	「初冬の吉野川」	ゆきもと のぶあき 雪本 信彰	(高知県)
「夏休み」	てらさき まさる 寺崎 賢	(岡山県)	「夏休み」	いのうえ ひろかず 井上 弘一	(京都府)
「棚田夕日に映える」	やなぎさわ かずお 柳澤 一男	(長野県)	「先人を偲ぶ」	うえの ひろき 上野 弘喜	(熊本県)

【SNS 部門受賞作品】

〔グランプリ〕 1名

「水はまるで天空の鏡でした。」

moo81516



〔特別賞〕 2名

「水は友達でした。」

3flower



「水は色々な表情の持ち主でした。」

おちゅん



上下流交流活動

水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発、健全な水循環の重要性について、国民の間に広く理解と関心を深めるため、ダム水源地域等の振興等に資する活動を行う団体に対し、助成に関する公募を行い、選考の上、以下に掲げる23団体（23件）に助成を実施しました。

No.	実施団体	名称・内容	日時・場所
1	北海土地改良区	第13回北海幹線用水路ウォーキング2018 北海幹線用水路が疏水百選に選定されたことを契機に始めたウォーキングイベント。農業用水利施設の機能、農業農村地域の多面的機能を一般の人たちに幅広く知ってもらう目的で実施。	H30. 7. 29(日) 北海道美唄市 (北海幹線用水路 周辺)
2	岩見沢市	2018 ふれあい水ひろば 岩見沢市の上下水道の理解を深めることを目的として、利き水体験や、水を浄化する体験、給水タンク車の展示等を行う参加型イベントを実施。	H30. 8. 1(水) 北海道岩見沢市 (いわみざわ健康ひろ ば)
3	十勝川中流部市民協働会議	十勝ダム周辺緑化促進事業 十勝ダム湛水区域内における、侵略的外来種のオオアワダチソウ群落が、地域住民や十勝管内居住者にとっての憩いの空間となるよう、帯広市、上川郡新得町から参加者を募り、在来種による緑化を実施。	H30. 10. 13(土)ほか 北海道上川郡新得町 (十勝ダム)
4	夏井川流域の会	夏井川流域住民主体の交流促進事業 夏井川流域各地で住民が分担して水質調査を行う他、上下流の小学校児童が、情報の交換や水源視察等を通じた上下流交流を実施。	H30. 6. 3(日)ほか 福島県田村市ほか
5	NPO 法人 足尾に緑を育てる会	渡良瀬川の流域間交流による未来の創造 渡良瀬川上流域の松木地区で、植樹体験と植樹地の観察を行い、足尾銅山による汚染からの再生について学ぶ、交流会を実施。	H30. 7. 7(土)ほか 栃木県日光市足尾町及 び群馬県太田市 (銅親水公園周辺ほ か)
6	墨田区太鼓連盟	「草木湖まつり」における上下流交流 草木ダムの竣工を契機とした、水源地域と同ダム受益地域の東京都の交流の一環として、東京都の和太鼓演奏団体による「草木湖まつり」における吾妻太鼓の演奏。	H30. 8. 15(水) 群馬県みどり市 (東運動公園)
7	NPO 法人 森びとプロジェクト委員会	森の案内人養成講座、生態観察 植生、昆虫、爬虫類等の四季の観察を通じて、生物社会と人間社会のつながりを学ぶ目的で、「森の案内人」を養成する講座や、足尾町の松木川の水生生物等の調査を実施。	H30. 6. 2(土)ほか 栃木県日光市足尾町
8	NPO 法人 水のフォーラム	利根川・荒川流域の水ネット・ハブ、「利根大堰」を見に行こう 利根川・荒川下流域の東京都や埼玉県さいたま市在住者の参加を募り、ダムで造る水を集め、都市用水・農業用水を送り出す水の拠点である利根大堰などを訪れ、流域の水ネットワーク理解を深めることを目的とした上下流交流会を実施。	H30. 8. 22(水) 埼玉県行田市ほか (利根大堰、見沼代用 水ほか)

No.	実施団体	名称・内容	日時・場所
9	小鹿野町・川越市 いのちの水を訪 ねる上下流交流 事業実行委員会	小鹿野町・川越市いのちの水を訪ねる上下流交流事業 小鹿野町及び川越市在住の小学生及びその保護者による、県営合角 ^{かっかく} ダムの見学、河川清掃、利き水体験、魚のつかみ取りその他を実施。	H30. 8. 25(土) 埼玉県秩父郡小鹿野町 (合角ダムほか)
10	^{かんながわ} 神流川ビジョン 推進協議会	神流湖ゴミゼロ活動 群馬県と埼玉県企業の企業や NPO 法人等の他、水源地域のカヌー愛好家や地元の漁協・住民等が参加し、神流湖(下久保ダム湖)周辺の美化活動と上下流交流を実施。	H30. 5. 27(日) 埼玉県児玉郡神川町 (下久保ダム)
11	NPO 法人 木曽川・水の始発 駅	第 23 回サマーキャンプ in KISOGAWA 木曽川流域上～下流(名古屋市、清洲市、北名古屋市、日進市、木祖村等)在住の小学生の参加を得て、木曽川水源地域(木祖村)で、水のめぐみや水を育む森林の大切さを学ぶサマーキャンプを実施。	H30. 8. 14(火)～16(木) 長野県木曽郡木祖村ほ か (味噌川ダム周辺)
12	生命の水と森の 活動センター 協議会	^{かんむりやま} 冠山探訪会 森林保護・育成の意識向上を図ることを目的として揖斐郡内及び同郡近隣地域の小学生とその保護者の参加を得て、揖斐川源流の冠山周辺への探訪を実施。	H30. 8. 11(土) 岐阜県揖斐郡揖斐川町 (冠山周辺)
13	愛知用水 土地改良区	愛知用水水源交流事業 愛知県東海市在住の愛知用水土地改良区関係者を対象として、水源地域(王滝村)での育樹作業並びに水源地域の現状及び今後の発展等に係る意見交換を実施。	H30. 8. 2(木)～3(金) 長野県木曽郡王滝村 (牧尾ダム周辺)
14	豊川総合用水 土地改良区	平成 30 年度豊川用水上下流交流事業 豊川用水の水源地である愛知県北設楽郡 ^{きたしたらくん} 豊根村在住の小学生とその保護者を対象に、上流域で貯えられた水が、下流域でどのように有効利用されているかについて学ぶ豊川用水施設見学を実施。	H30. 8. 3(金) 愛知県豊橋市及び田原 市 (豊川用水施設周辺)
15	NPO 法人 地域と自然	よし笛コンサート「水・め・ぐ・み」 淀川流域の市民の参加を得て、よし笛コンサートとともに、自然、環境、治水、利水、防災を盛り込んだ学習会を実施。	H30. 9. 20(木) 三重県名張市 (アドバンスコープ ADS ホール)
16	近畿大学農学部 環境管理学科里 山生態学研究室	水の週間親子ダム見学会 近畿大学環境学習会 水の週間親子ダム見学会の奈良県内の参加者を対象に、布目ダム周辺に生息する生物のパネル及び標本の展示や、外来生物に関する啓発活動を実施。	H30. 8. 7(火) 奈良県奈良市 (布目ダム)
17	NPO 法人 ^{やなわねがわ} 家棟川流域観光 船	次世代の子供達に自然環境体験学習 琵琶湖の自然環境及び水資源の大切さを学ぶ事業として、大阪府豊中市と滋賀県 ^{やすし} 野洲市の子供達による、生態調査を兼ねた、琵琶湖(あやめ浜)でのシジミの収穫体験を実施。	H30. 7. 15(日)ほか 滋賀県野洲市 (家棟川下流ほか)
18	^{あまわかこ} 天若湖アート プロジェクト 実行委員会	天若湖アートプロジェクト「あかりがつなぐ記憶」 日吉ダム建設時に水没移転した天若集落各戸の位置に LED 照明を浮かべ、かつての夜景を再現するイベントやアート展示を実施。下流域(大阪・京都)や地元から多数の見学者。	H30. 6. 2(土)～3(日) 京都府南丹市 ^{なんたんし} (日吉ダム周辺)

No.	実施団体	名称・内容	日時・場所
19	NPO 法人 新町川 しんまちがわ を守る会	さめうら水源の森整備交流会 徳島県、香川県及び高知県嶺北地域住民の参加を得て、早明浦ダム周辺にて、保水機能の向上のため、単一林地を針葉樹・広葉樹の混合林地化する活動（広葉樹の植樹、下草の伐採）を実施。	H30. 6. 22(金)～23(土) 高知県土佐郡大川村 (早明浦ダム周辺)
20	四国中央市 湖水まつり 実行委員会	湖水まつり 水や水源地域に対する感謝の気持ちの醸成と併せて地域の活性化の一助となるよう、上下流域の住民が参加し、富郷ダム建設による移転者を招待して、湖水まつりを実施。	H30. 8. 4(土) 愛媛県四国中央市 (富郷ダム周辺)
21	NPO 法人 さめうらプロジェクト	さめうら湖ウォータースポーツチャレンジ 2018 早明浦ダムの存在意義の再確認と、さめうら湖の新たな活用による水源地域活性化を目的として、水上安全講習、早明浦ダムの役割に関する講話、パドルマラソンなどを実施。	H30. 8. 20(月) 高知県土佐郡土佐町・大川村 (早明浦ダム周辺)
22	ウォーターフェスティバル実行委員会	ウォーターフェスティバル 2018 地域の活性化を図ることを目的に、九州北部豪雨写真展、ダムのことがよくわかる「3ダムクイズラリー」、地元農産物の販売・地元商店による飲食物の販売を通じて、上下流交流を実施。	H30. 7. 28 (土) 福岡県朝倉市 (あまぎ水の文化村)
23	NPO 法人 国頭 くにがみ ツーリズム協会	安波あはダム・クイナまつり亜熱帯 ジャングルカヌー体験 沖縄本島北部及び中南部の参加者を募り、沖縄本島の水資源の約 80%がダム水となっていることに鑑みて、安波ダムの湖面を利用したカヌー体験を実施。	H30. 9. 22(土) 沖縄県国頭郡国頭村 (安波ダムほか)

【実施状況（抜粋）】



2018 ふれあい水ひろば
(岩見沢市)



利根川・荒川流域の水ネット・ハブ、
「利根大堰」を見に行こう
(NPO 法人水のフォーラム)



小鹿野町・川越市いのちの水を訪ねる
上下流交流事業
(小鹿野町・川越市いのちの水を訪ねる
上下流交流事業実行委員会)



次世代の子供達に自然環境体験学習
(NPO 法人家棟川流域観光船)



湖水まつり
(四国中央市湖水まつり実行委員会)



安波ダム・クイナまつり亜熱帯
ジャングルカヌー体験
(NPO 法人国頭ツーリズム協会)

国・地方公共団体等における取り組み例

内閣官房をはじめとする国の機関や地方公共団体等においても、水に関する理解を深めるための活動が広範に実施されました。

こども霞が関見学デー

～“おいしい水”あります！ 水道水とミネラルウォーターを飲み比べてみよう！！～

日時 平成30年8月1日（水）～2日（木）

場所 中央合同庁舎第5号館2階講堂（東京都千代田区霞が関1-2-2）

主催 厚生労働省医薬・生活衛生局水道課

内容 水道水のおいしさを実感することができる「水道水とミネラルウォーターの飲み比べ」のほか、水道の重要性や、水の大切さを学ぶことができる「パネル展示学習とクイズを組み合わせた“水のたびクイズ”」を行いました。



水道水とミネラルウォーターの飲み比べにチャレンジする親子



パネル展示学習スペース

こども霞が関見学デー ～田んぼの水はどこからやってくる？～

日時 平成30年8月1日（水）～2日（木）

場所 農林水産省 7階 研修室（東京都千代田区霞が関1-2-1）

主催 農林水産省 農村振興局

内容 農業水利施設の役割や田んぼの水がどこからやってくるのか判りやすく解説したVR動画による施設見学体験のほか、体験された児童に対し「水の恵みカード※」の配布を行いました。



VR動画による施設見学体験



水の恵みカード

※水の恵みカード

地域の有名なブランド（特産品）の農産物と、その農産物の生産や健全な水循環を支える農業水利施設（水の恵み施設）の情報を掲載したカード。平成28年の水の日（8月1日）より配布を開始。

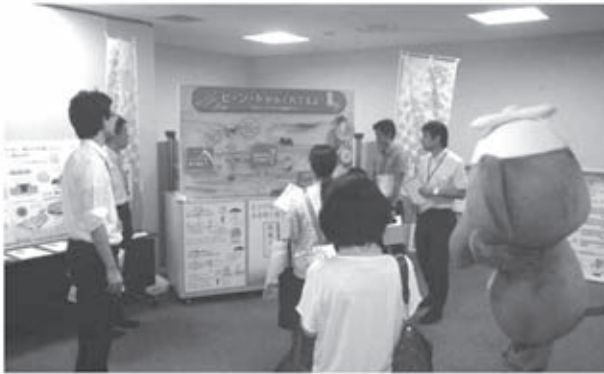
こども霞が関見学デー ～水について考えてみよう！～

日時 平成30年8月1日（水）～2日（木）

場所 合同庁舎3号館10階共用大会議室（東京都千代田区霞ヶ関2-1-3）

主催 国土交通省水資源部水資源政策課（巧水（たくみ）スタイル推進チーム協力）

内容 水を大切に使う方法を分かりやすく体験できる「巧水（たくみ）スタイルヒント！ボード」、雨水利用啓発のパネルを展示したほか、水の重要性、貴重さなどの理解を深めるパネルの展示を行いました。



展示ブース全体の様子



巧水スタイルヒント！ボードで
節水について学ぶ子どもたち

※巧水（たくみ）スタイル推進チーム

節水意識の向上、節水型ライフスタイルの定着、節水機器・技術の普及等を目指し、産業界が中心となって、業界団体、学識者、地方自治体等が参画する活動チーム（2011年5月に発足。）

国土交通省内でのパネル展示

日時 平成30年8月13日（月）～31日（金）

場所 合同庁舎3号館1階正面玄関展示スペース（東京都千代田区霞が関2-1-3）

内容 平成30年度水資源功績者表彰受賞者の功績概要、第40回全日本中学生水の作文コンクール優秀作品、第33回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品、明治150年記念「明治水維新～水の近代化と日本の近代化～」、雨水利用啓発のパネルを展示し、国土交通省職員及び来庁者に水の大切さをPRしました。



パネル展示状況
(左：水の作文コンクール優秀作品、
右：水資源功績者表彰受賞者功績概要)



パネル展示状況
(明治150年記念「明治水維新
～水の近代化と日本の近代化～」)

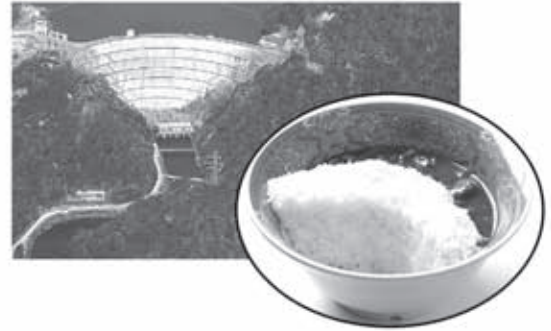
国土交通省ダムカレーの販売

日時 平成30年7月30日（月）～8月3日（金）

場所 合同庁舎3号館地下1階職員食堂

（東京都千代田区霞が関2-1-3）

内容 “森と湖に親しむ旬間”と“水の週間”のコラボ企画として、国土交通省ダムカレーを販売し、水の日のPRをしました。およそ1日80食が販売され、連日売り切れの盛況でした。



【埼玉県】水源わくわくセミナー2018

日時 平成30年7月31日（火）～8月1日（水）

場所 ハッ場ダム建設地、長野原町民グラウンド

主催 埼玉県、埼玉県企業局

人数 93人

内容 平成8年度から、埼玉県内在住の小学生とその保護者の方を対象に「水源わくわくセミナー」を開催しています。

このセミナーはハッ場ダムの建設が進められている群馬県吾妻郡長野原町を訪問し、ハッ場ダムの役割や地元の皆様の苦労などを理解していただくとともに、地元の小学生との交流を図ることを目的として、毎年、水の週間に実施しています。

今年度は、7月31日（火）・8月1日（水）の1泊2日で開催し、上下流交流会として、浦和レッズハートフルクラブの指導によるサッカー入門教室やクイズ大会などを行いました。



国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所の協力により、ハッ場ダムの見学を実施



サッカー入門教室の様子



クイズ大会の様子
(長野原町と埼玉県の子供たちが一緒にクイズの答えを考えています。)

【NPO 法人雨水まちづくりサポート】雨水（あまみず）検定（初級）

日時 平成30年8月6日（月）

場所 日比谷図書文化館（東京都千代田区）

主催 特定非営利活動法人雨水まちづくりサポート

内容 雨や水循環に関する知識を、幅広い層の皆さんに楽しく身につけていただくことを目的とした検定試験を、8月6日の「雨水の日」に合わせて実施しました。主催者の雨水まちづくりサポートは、主に都市における雨水管理をテーマに、まちづくりや人材育成に関わる NPO 法人です。検定は、初級、中級、上級（雨水マイスター）のレベルを設けており、だんだんとステップアップできます。

3月に続き第2回目の開催となる今回は、水や緑に関わる企業の方、研究者の方、環境教育の専門家というバラエティに富んだ参加者が集いました。前半では、都会の雨のゆくえや近年の降雨の変化、生活の中の水使用などについて講演し、後半は3択式の問題に挑戦、その場で採点と解説を行いました。参加者同士の活発な意見交換も行われ、雨の恵みと同時に気候変動や持続的な雨水との付き合い方について考える時間となりました。



開催案内



雨水まちづくりサポート神谷理事長よりまとめ
会場には都市の雨のゆくえを解説したパネルを展示

広報の取り組み

水資源の有限性や水の貴重さについての理解と関心を深めるために積極的な広報を行いました。

○「水の日」ポスターの掲出

期間 平成30年7月1日（日）～ 平成30年8月7日（火）

場所 関係府省庁、都道府県、市町村、中学校、東京メトロ（16駅）等で掲出

内容 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるために、「水の日」ポスター約20,000枚を作成、掲出し、「水の日」について周知しました。



水の日ポスター



東京メトロ 霞ヶ関駅

○政府広報・Yahoo!バナー広告の掲載

掲載サイト名 ヤフー

掲載期間 平成30年7月23日（月）
～平成30年7月29日（日）

広告文 8月は水の使用量が最も増えます
だから、8月1日は『水の日』です。
水と遊び、水を学ぶイベントはこちら。

内容 国内ニュースの詳細ページ、雑誌カテゴリーの国内詳細ページに掲載。バナーは「水の日・水の週間ウェブサイト」(<http://www.mizunohi.jp/>)にリンク。



バナー広告掲載例

○メディアキャラバンの実施

7月10日(火)に、ミス日本「水の天使」の浦底里沙さんと「水の日(8月1日)」関連行事のPRを行うためメディアキャラバンを行い、主要な新聞やスポーツ新聞、ウェブサイト(ニュースサイト)等に取り上げられました。

掲載媒体一覧

- 【新聞】7月12日 読売新聞
7月27日 サンケイスポーツ、夕刊フジ
7月28日 スポーツニッポン
- 【WEB】7月18日 朝日新聞デジタル



取材風景

第42回「水の週間」（平成30年度）都道府県行事一覧

項目 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会 講演会・シンポジウム等	上下流交流 施設見学会等	街頭キャンペーン アンケート	展示会等	水の作文コンクール	広報・PR活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	電光掲示板・横断幕板 懸垂幕・立看板
全国	45	4	8	23	6	21	46	6	8	14	13	40	13
北海道	○		☆	○		◎	◎				☆	◎	
青森県	○		☆				◎					○	
岩手県	○						◎					○	
宮城県	○					◎	○			◎		○	
秋田県	○						○						
山形県	○						○				☆	○	
福島県	◎						◎			◎		◎	☆
茨城県	○			○		○	◎					○	
栃木県	○	◎		☆			◎		○			○	○
群馬県	○		○	○		○	◎			○		○	
埼玉県	○		☆	◎	◎		◎		☆		◎	◎	◎
千葉県	○					○	◎	○			○	○	○
東京都	○			○		○	◎					○	
神奈川県	○			☆		○	◎				◎	◎	☆
新潟県	○						◎			○		○	
富山県	○			○			◎			◎			
石川県	○						○		○				
福井県	○			○		◎	○			☆			
山梨県				☆							☆	○	
長野県	○	◎				○	○						○
岐阜県	○					◎	◎					○	
静岡県	◎			☆		☆	◎	☆		◎		◎	
愛知県	○			◎		○	◎				○	○	
三重県	○			○			○					○	
滋賀県	○					○	◎			○		○	
京都府	○			☆		○	◎		☆			◎	
大阪府	○		☆	☆	☆		◎	☆		☆	☆	◎	☆
兵庫県	○					○	◎					○	
奈良県	○			◎		◎	◎					○	
和歌山県	○						◎					○	
鳥取県	○		○	☆			○						
島根県	○						◎			○	○	◎	
岡山県	○						○					○	
広島県							○					◎	
山口県	○						◎					○	
徳島県	○			◎	○		◎			○		○	○
香川県	○	◎		◎		○	◎	○	○		○	○	
愛媛県	○			☆		◎	◎					◎	◎
高知県	○			☆	◎		○					○	○
福岡県	○			☆	◎		◎	○	○		○	○	○
佐賀県	○					○	◎					○	
長崎県	○						◎			☆	☆	◎	
熊本県	○		◎		☆		◎					◎	
大分県	○						◎						○
宮崎県	○						◎		○	○		○	○
鹿児島県	○		◎	☆		☆	◎	☆	☆	☆	☆	◎	
沖縄県	○	◎				○	◎					○	

注)「ポスター」欄の○は、全国共通版(国土交通省作成)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したものも配布したことを示す。

「パンフレット」欄の◎は、都道府県等で独自に作成したものを配布したことを示す。

「作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。

それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加え市町村等が独自に取り組んでいることを示す。

☆は市町村等のみが独自に取り組んでいることを示す。

第42回水の週間 新聞等報道状況

月 日	都道府県	新聞名等	地域	見 出 し
6月3日	愛知県	中日新聞	地方	「親子ふれ愛・水源地探検ツアー」の参加者募集
6月16日	福島県	福島民友	地方	今村さんから優秀賞 水の作文
6月17日	福島県	福島民報	地方	最高賞に5作品 中学生水の作文県コンクール
6月22日	静岡県	静岡新聞	地方	水資源大切さ学ぶ
7月4日	香川県	西日本放送(ラジオ)	地方	節水チャレンジについて
7月5日	埼玉県	埼玉新聞	地方	ダムと浄水場の見学ツアー募集
7月5日	神奈川県	FMヨコハマ	地方	秦野名水フェスティバル
7月6日	和歌山県	紀伊民報	地方	水の作文コンクール県審査
7月12日	東京都	読売新聞	全国	8月1日は水の日 水の天使がPR
7月13日	神奈川県	タウンニュース	地方	秦野名水を知ろう探検しよう
7月18日	東京都	朝日新聞デジタル		A・RINGへようこそ ミス日本「水の天使」
7月19日	神奈川県	FMヨコハマ	地方	秦野名水フェスティバル
7月19日	香川県	岡山放送(テレビ)	地方	節水チャレンジについて
7月20日	神奈川県	タウンニュース	地方	名水伝えることも広報
7月20日	神奈川県	毎日新聞	地方	親子でおいでよ 丹沢・秦野「山」「水」夏の二大イベント
7月21日	岩手県	胆江日日	地方	水の郷からメッセージ(県水の作文コンクール)
7月23日	和歌山県	テレビ和歌山	地方	水の作文コンクールで優秀賞
7月24日	福島県	福島民友	地方	ボートでダム湖一周 いわき 魅力や役割紹介 (小玉ダム記事)
7月24日	福島県	福島民友	地方	29日 四時ダムまつり 限定カレー発売
7月25日	福島県	いわき民報	地方	第23回四時ダムまつり
7月25日	東京都	BtoBプラットフォーム		中学生水の作文コンクール受賞作品決定!
7月25日	東京都	スポニチWEB		水の天使来社「水の大切さ伝えたい」
7月25日	大阪府	ケーブルテレビJ:COM	地方	池田市下水処理場体験見学会(「デイリーニュース北摂」で放送)
7月26日	山形県	山形新聞	地方	打ち水 ひとときの涼 山形市中心街「暑さを忘れよう」
7月26日	長野県	信濃毎日新聞	地方	「酷暑に負けず」松本市役所で打ち水
7月26日	熊本県	熊本日日新聞	地方	全日本中学生水の作文コンクール 廣岡さん橋本さん入選
7月27日	東京都	サンケイスポーツ	全国	「水の天使」が水の大切さ訴え 水を考えるつどい
7月27日	東京都	タ刊フジ	全国	8月1日は水の日 天使のお願い「資源の大切さ考えて」
7月27日	東京都	ZAKZAK タ刊フジ		8月1日は水の日 天使のお願い「資源の大切さ考えて」
7月27日	滋賀県	京都新聞	地方	滋賀県中学生水の作文コンクール(最優秀賞、優秀賞2作品の全文掲載)
7月28日	栃木県	栃木放送(ラジオ)	地方	県政ナビ(「水の日・水の週間について」)
7月28日	群馬県	上毛新聞	地方	水の大切さ 楽しみ学ぶ
7月28日	大阪府	大阪日日新聞	地方	2018なわて打ち水大作戦!
7月29日	埼玉県	埼玉新聞	地方	本庄でイベント 打ち水で暑さ一服
7月29日	東京都	スポーツニッポン	全国	ミス日本「水の天使」水の大切さ伝える 8・1水の日
7月30日	山梨県	UTY(テレビ局)	地方	ダム見学の様子を夕方のニュースで放送
7月31日	栃木県	日刊建設新聞	地方	道の駅みぶでイベント 水の日啓発へ31日
7月31日	栃木県	栃木テレビ	地方	イブニング6プラス(水の日・水の週間イベントについて報道)
7月31日	愛知県	NHK	地方	さらさらサラダ 夏の自由研究にもびったり! イベント情報
8月1日	福島県	いわき民報	地方	ステージショー、遊覧など楽しむ 第23回四時ダムまつり開く
8月1日	栃木県	下野新聞	地方	談話室(水の日・水の週間イベントについて記事掲載)
8月1日	東京都	建設通信新聞デジタル		風波・きょう8月1日は「水の日」。
8月1日	神奈川県	タウンニュース	地方	秦野名水を知ろう
8月1日	神奈川県	神奈川新聞	地方	名水の里 魅力PR 利き水体験やお茶提供 1日にフェス
8月1日	富山県	北日本新聞	地方	きょう8月1日は「水の日」
月 日	都道府県	新聞名等	地域	見 出 し

8月1日	愛知県	中日新聞	地方	最優秀に常滑の浅井さん
8月2日	島根県	山陰中央新報	地方	「水の日」ちなみ 園児がテルサ前で打ち水
8月2日	沖縄県	宮古毎日新聞	地方	池間さん、羽路君が優秀賞 洲鎌君は入選 中学生水の作文コンクール
8月2日	宮城県	河北新報	地方	全日本水の作文コンクール 井崎さん(仙台二華中)総理大臣賞
8月2日	福島県	福島民友	地方	四時ダムまつり フラヤボート乗船
8月2日	群馬県	上毛新聞	地方	ダムの役割 パネルで説明
8月3日	千葉県	千葉テレビ	地方	「水の作文コンクール」受賞作決まる
8月3日	静岡県	テレビ静岡	地方	猛暑と天気に絡めたコーナーの一部として紹介された(見出しについては不明)
8月3日	大阪府	ケーブルテレビJ:COM	地方	2018なわて打ち水大作戦!(「デイリーニュース北河内」で放送)
8月4日	富山県	富山新聞	地方	県中学生水の作文コンクール表彰式
8月4日	長野県	市民タイムス	地方	打ち水大作戦 猛暑に涼
8月4日	静岡県	静岡新聞	地方	上下水道 仕組みPR
8月5日	愛媛県	愛媛新聞	地方	全日本中学生水の作文コンクール 森さん(今治・近見中) 経産大臣賞
8月5日	愛媛県	愛媛新聞ONLINE		水の作文コンクール 今治・近見中生が経済産業大臣賞受賞
8月6日	東京都	教育サイト「リセマム」		仙台の中学生が水の作文最優秀賞
8月6日	大阪府	ケーブルテレビJ:COM	地方	池田打ち水大作戦2018(「デイリーニュース北摂」で放送)
8月6日	宮城県	宮崎日日新聞	地方	水の作文全国コンクール高司さん(宮崎西高付中3年)入選
8月8日	福島県	福島民報	地方	全日本中学生水の作文県コンクール 今村さんらに賞状
8月8日	新潟県	新潟日報	地方	海、川の美化 感性豊かに 県庁ポスター・作文コン表彰式
8月8日	大阪府	ケーブルテレビJ:COM	地方	大東市打ち水大作戦(「デイリーニュース北河内」で放送)
8月9日	福島県	福島民友	地方	今村さんらたたえる 水の作文コンクール
8月9日	神奈川県	日本水道新聞	全国	横浜市3局が連携して「水の日」イベント
8月10日	埼玉県	埼玉北より新聞	地方	水をまいて涼快感「市民一斉打ち水大作戦」
8月11日	宮城県	河北新報	地方	水の作文コンクール 井崎さん最高賞知事に受賞報告
8月13日	東京都	文化放送	全国	「エシカルレポート」井崎さんインタビュー
8月13日	神奈川県	テレビ神奈川	地方	「カナガワニ海」で放送
8月14日	宮城県	産経新聞	地方	「昔ながらの涼しさを」 仙台で伊達武将隊など打ち水イベント
8月14日～16日	和歌山県	和歌山放送(ラジオ)	地方	水の作文コンクール優秀賞受賞作品の朗読
8月15日	東京都	日本設備工業新聞	全国	水循環の大切さアピール 水の日記念行事 水を考えるつどい開催
8月15日	愛媛県	愛媛新聞	地方	森林と水の関係学ぼう
8月16日	宮城県	読売新聞(宮城版)	地方	「水の怖さへの思い評価」 水の作文優秀賞 井崎さん県庁訪問
8月19日	岩手県	河北新報	地方	舟っこ流し 炎まとい川下る舟 先祖の霊見送る
8月19日	岩手県	岩手日報	地方	炎舞う舟に故人しのぶ 盛岡、舟っこ流し
8月22日	鹿児島県	南日本新聞	地方	水の作文コン農水大臣賞
8月23日	群馬県	上毛新聞	地方	水源地の大切さ ハッ場見て理解
8月23日	東京都	日刊建設工業新聞	全国	中学生が一日ダム事務所長／コンクール入賞者対象に職場体験実施へ
8月25日	愛媛県	愛媛新聞	地方	石手川ダム 役割学ぶ 松山 森さん(今治・近見中) 一日事務所長
8月27日	東京都	日本水道新聞	全国	流域一体の取り組みを 8月1日は「水の日」 水を考えるつどい
8月28日	宮城県	建設産業新聞(東北版)	地方	1日管理所長任命で業務体験 水の作文コンクール最優秀賞井崎英里さん 東北整備局釜房ダム
8月28日	鹿児島県	南日本新聞	地方	一日管理所長中学生が体験 さつま・鶴田ダム
8月31日	愛知県	中日新聞	地方	新丸山ダム工事事務所一日所長 愛知・扶桑の中学生
9月2日	鹿児島県	KYT	地方	NNNストレイトニュース 鶴田ダムで中学生が一日管理所長
9月5日	愛知県	建設工業新聞(中部版)	地方	中学生が一日ダム事務所長を体験 水の作文コンクール大臣賞の真野さん招く
9月5日	愛知県	岐阜新聞	地方	中学生が一日所長 新丸山ダム工事事務所 巡視艇で周辺視察
9月6日	愛知県	建設通信新聞	全国	中学1年生が1日事務所長 整備局新丸山ダム
9月10日	東京都	月刊ダム日本	全国	水の週間 中央行事を開催(カラー2ページ写真レポート)

「水の週間」実施経過

メインスローガン「水ーこの限りある貴重な資源」「水は限りある貴重な資源です」

(国土庁発足 S49. 6. 26)

(国土交通省に再編 H13. 1. 6)

(水循環政策本部発足 H26. 7. 1)

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
昭和 52 (1)	貴重な水・あなたと一緒に考えたい	水の用心	○水の週間展示会（国土庁会議室） （ポスター、パンフレット） ○第 1 回水資源に関するシンポジウム （10. 25）	・水の週間閣議了解（5. 31） ・国連水会議（3. 14 ～ 25） ・第三次全国総合開発計画閣議決定
昭和 53 (2)	水の価値をみなおそう 水源地域の人々に感謝しよう 水とのふれあいのなかで……	水も難局だナ	○ウォーターフェア’ 78 （銀座 松屋）	・水の週間実行委員会設立 （ 5. 8、11 団体） ・長期水需給計画策定 ・福岡渇水
昭和 54 (3)	水源地域の人々に感謝しよう 水の大循環の中で私たちは… 限りある水ーいまこそいかに私 たちの智慧ー	育てよう水 ー足どり確かに、 一歩一歩。ー	○ウォーターフェア’ 79 （船の科学館） ○第 1 回全日本中学生水の作文コンク ール ○水資源功績者表彰 ○ウォーターフェアふくおか（福岡市）	・水資源世論調査
昭和 55 (4)	節水型社会をめざして 上下流の連帯を育てよう	貯めましょう日本の水 ーみんなの水を、みんなの水 で。ー	○ウォーターフェア’ 80 東京 （科学技術館） ○上下流交流運動	・地域水需給計画推進 ・沖縄渇水
昭和 56 (5)	水源地の人たちに感謝しましよ ういのちの水・水とのであい。	今日の水・明日の水 ー水みんなの和で 育てよう。ー	○ウォーターフェア’ 81 東京 （科学技術館） ○第 1 回ウォーターフェア隅田川 レガッタ ○ウォーターフェアポートピア （兵庫県）	・水研究協力校の指定
昭和 57 (6)		丈夫な水に育てたい。	○ウォーターフェア’ 82 東京 （科学技術館） ○第 2 回水資源に関するシンポジウム （8. 3 ～ 5）	・長崎水害
昭和 58 (7)		やさしい、水、好き。	○ウォーターフェア’ 83 東京 （科学技術館）	・これより毎年、水資源白書作成
昭和 59 (8)		水の愛につつまれて	○ウォーターフェア’ 84 東京 （科学技術館）	・水資源局から水資源部へ改組 （国土庁） ・国際河川博覧会（アメリカ・ニュー オリンズ）
昭和 60 (9)	考えよう水ーくらしと水・資源とし て水ー	水・ありがとう。	○ウォーターフェア’ 85 東京 （科学技術館） ○ウォーターフェア KOBE （神戸市）	・冬期渇水
昭和 61 (10)	築こう 水のある豊かな暮らし	いつも水といっしょ。	○ウォーターフェア’ 86 東京 （科学技術館） ○ウォーターランド（新宿副都心） ○第 1 回水とのふれあいフォトコンテ スト ○ダム子供マラソン（宮ヶ瀬ダム）	・水資源世論調査 ・冬期渇水（西日本）
昭和 62 (11)	水のある豊かな暮らし	水は、ともだち。	○ウォーターフェア’ 87 東京 （科学技術館） ○第 3 回水資源に関するシンポジウム （浩宮殿下による特別講演） （8. 4 ～ 5）	・首都圏渇水 ・第四次全国総合開発計画閣議決定 ・全国総合水資源計画（ウォーターブ ラン 2000）策定
昭和 63 (12)	水のある豊かな暮らし	ぼくの水、みんなの水。	○ウォーターフェア’ 88 東京 （科学技術館） ○水の日記念テレビトーク	・浩宮殿下展示会御台臨 ・竹下内閣総理大臣記念式典臨席
平成元 (13)	水のある豊かな暮らし	水、今日もありがとう。	○ウォーターフェア’ 89 東京 （科学技術館）	・皇太子殿下展示会行啓 ・宇野内閣総理大臣記念式典臨席
平成 2 (14)	水のある豊かな暮らし	水がささえる豊かな社会	○ウォーターフェア’ 90 東京 （科学技術館）	・人と水とのかわり世論調査 ・首都圏渇水

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 3 (15)	水が支える豊かな暮らし	水…みんなの宝	○ウォーターフェア’ 91 東京 (東京都庁)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 4 (16)	水が支える豊かな暮らし	考えよう、水のあした	○ウォーターフェア’ 92 東京 (東京都庁) ○第 4 回水資源に関するシンポジウム (10. 24)	・環境と開発に関する国連会議
平成 5 (17)	水が支える豊かな暮らし	水がなくては生きられないからね	○ウォーターフェア’ 93 東京 (墨田区役所)	・「国連水の日」制定 (3. 22)
平成 6 (18)	水が支える豊かな暮らし	すばらしい自然の恵み 「水」を見直そう	○ウォーターフェア’ 94 東京 (墨田区役所)	・村山内閣総理大臣記念式典臨席 ・全国的な渇水 ・人と水とのかかわり世論調査
平成 7 (19)		大切に使おう、かけがえのない 「水」	○ウォーターフェア’ 95 東京 (墨田区役所)	
平成 8 (20)		天の恵み「水」。ありがとう。 「水」を見つめて、20 年。	○ウォーターフェア’ 96 東京 (科学技術館)	・皇太子ご夫妻記念式典、展示会行啓 ・橋本内閣総理大臣記念式典臨席
平成 9 (21)		夏、到来。	○ウォーターフェア’ 97 東京 (科学技術館) ○第 5 回水資源に関するシンポジウム (8. 4 ～ 5)	
平成 10 (22)		みんなで考えよう、 水の大切さ…。	○ウォーターフェア’ 98 東京 (科学技術館)	
平成 11 (23)		「当たり前」ではありません！	○ウォーターフェア’ 99 東京 (科学技術館) ○水源地域からのメッセージ	・新しい全国総合水資源計画(ウォータープラン 21)策定 ・小淵内閣総理大臣記念式典臨席、展示会視察
平成 12 (24)		水の力	○ウォーターフェア 2000 東京 (江戸東京博物館)	
平成 13 (25)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’ 01 東京 (東京都庁)	・国土交通省発足 (1. 6) ・全国的な渇水
平成 14 (26)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’ 02 東京 (新宿パークタワー) ○第 6 回水資源に関するシンポジウム (8. 2 ～ 3)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 15 (27)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’ 03 東京 (科学技術館)	・長い梅雨、冷夏
平成 16 (28)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’ 04 東京 (科学技術館)	・東京の真夏日の連続記録更新 ・局所的な豪雨
平成 17 (29)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’ 05 東京 (科学技術館)	・全国的な渇水 ・局所的な豪雨
平成 18 (30)		水のある幸せ、これから	○ウォーターフェア’ 06 東京 (科学技術館)	・皇太子殿下 水の展示会行啓 ・17 年末に全国で大雪、降水量首都圏は平年並み
平成 19 (31)		水がある、いのちがある。	○ウォーターフェア’ 07 東京 (科学技術館) ○第 7 回水資源に関するシンポジウム (8. 3 ～ 4)	・春から 6 月にかけて西日本を中心に少雨続く、梅雨入りに遅れ、一部で渇水、夏に記録的高温
平成 20 (32)		水ははぐくむ和の暮らし	○ウォーターフェア’ 08 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、四国地方を中心とした渇水 ・局所的な豪雨
平成 21 (33)		将来を安全・安心に暮らすため、水を大切に使う社会へ	○ウォーターフェア’ 09 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、九州北部を中心とした記録的な豪雨
平成 22 (34)		水の安心・安全を考えよう！	○ウォーターフェア’ 10 東京 ○水の週間記念シンポジウム (科学技術館)	・局所的な豪雨 ・全国で記録的な猛暑
平成 23 (35)		水の恵み～東日本大震災を機に考える～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○「水の週間」水を考えるつどい (科学技術館)	・皇太子殿下水を考えるつどい行啓 ・平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨 ・全国で節電の夏
平成 24 (36)		水の恵みを未来に～健全な水循環の再生を目指して～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム (科学技術館)	・平成 24 年 7 月九州北部豪雨 ・利根川水系渇水 ・全国で節電
平成 25 (37)		安全・安心な水のために	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム (発明会館)	・全国的な渇水 ・全国で記録的な猛暑、局所的な豪雨

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 26 (38)		水とめぐる水のめぐみ	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（砂防会館） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・水循環基本法施行及び水循環政策本部設立 ・水循環基本法における「水の日」の法定化 ・平成 26 年 8 月豪雨（広島、京都など） ・御嶽山噴火
平成 27 (39)		みんなで考えよう！水のこと！	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（国連大学） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・水循環基本計画閣議決定 ・平成 27 年 9 月東北・関東豪雨
平成 28 (40)		水とめぐる水のめぐみ	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（科学技術館） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・皇太子同妃両殿下 水を考えるつどい行啓 ・全国的な渇水
平成 29 (41)		水を探そう	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（イイノホール） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・平成 29 年 7 月九州北部豪雨 ・全国的な渇水
平成 30 (42)		水は、大切でした。	○「水の日」「水の週間」記念水を考えるつどい（イイノホール） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・平成 30 年 7 月豪雨

※ 全日本中学生水の作文コンクール及び水とのふれあいフォトコンテストは、現在も継続中。

水の週間実行委員会について

昭和 53 年に、水に関係の深い民間団体により、「水の週間実行委員会」が設立され、「水の日」「水の週間」の趣旨に賛同し、この運動をさらに広汎な国民運動として推進することとして、政府・地方公共団体等が行う各種の啓発活動と連携して諸活動を実施している。

水の週間実行委員会設立趣意書

(昭和 53 年 5 月 8 日設立総会)

かつて、ケネディは「21 世紀を制するものは原子力と水だ」と断言し、水問題の重要性を訴えたが、まことに水は国の産業経済の発展のみならず人類の生存に必須なものであり、水問題の解決なくしては将来の発展は考えられないといつてよいであろう。

古来、我が国は、豊葦原瑞穂の国といわれ豊かな水に恵まれ“水の恩恵”を享受してきており、「水は天からもらい水」「湯水のように使う」などの言葉に示されるように水はいつでも好きなだけ使える無尽蔵な資源と考えられがちであった。

しかし、近年における生活水準の向上、産業経済の発展に伴い特に人口・産業の集中が著しい関東・近畿等の都市における生活用水、工業用水等の水需要が急激に増大し、渇水時における水不足や水質汚濁、地盤沈下等の問題を生じるところとなり、ようやく「水」が限りある資源として認識されはじめたところであるが、まだ十分とはいえない。

このため、政府は、昭和 52 年に 8 月 1 日を「水の日」とし、この日から 1 週間を「水の週間」と定め水に関する国民の理解と認識を深めることとして、水に関する各種の啓発運動を実施したところであるが、誠に時宜を得た意義深いものであり、今後とも積極的な展開が望まれるところである。

とりわけ、開発適地の減少等からダム等による水資源開発が次第に困難となり近い将来における水需要のひっ迫が避けられず、今後は水利用の合理化等の施策の推進が必要となっている今日の状況に鑑みるならば、「水の週間」における啓発運動をさらに積極的に推進し、国民一人一人が水資源開発の重要性を十分認識し、水の有限性・貴重さを理解し節水等の具体的な行動に留意するような効果的な運動として盛り上げることが必要である。

このような考えのもとに、政府による「水の週間」の各種の啓発運動と一体となった諸行事を積極的に実施し、もって水資源問題解決の一助に資するものとして、「水」に深いかかわりをもつ事業団体等によっての水の週間実行委員会を設立するものである。

水の週間実行委員会の組織

会長 虫明功臣（日本河川協会会長）

平成30年 8月 1日現在

団 体 名	実 行 委 員	運 営 委 員
全 国 水 土 里 ネット	専務理事	所 長
造 水 促 進 セ ン タ ー	理 事 長	専務理事
日 本 治 山 治 水 協 会	会 長	専務理事
日 本 河 川 協 会	会 長	常務理事
日 本 工 業 用 水 協 会	会 長	事務局長
日 本 水 道 協 会	理 事 長	調査部長
全 国 簡 易 水 道 協 議 会	会 長	事務局長
日 本 下 水 道 協 会	理 事 長	常務理事
日 本 ダ ム 協 会	会 長	専務理事
利根川・荒川水源地域対策基金	理 事 長	事務局長
	常務理事	
日 本 水 フ ォ ー ラ ム	代表理事	代表理事
土 木 学 会	会 長	専務理事
農 業 農 村 工 学 会	会 長	専務理事
水 資 源 機 構	理 事 長	総務部長
	理 事	
	◎ 永森栄次郎	
		森 井 秀 之
		大熊那夫紀
		津 元 頼 光
		萩 原 寿 夫
		青 柳 伸 一
		玉 野 井 晃
		若 松 五 常
		山 口 敬 義
		北 川 正 男
		明 戸 邦 浩
		竹村公太郎
		塚 田 幸 広
		小 泉 健
		柘植紳二郎

団 体 名	実 行 委 員	運 営 委 員
国 土 交 通 省（水 資 源 部）	－	大 臣 官 房 審 議 官
		水 資 源 政 策 課 長
		水 資 源 計 画 課 長
		企 画 専 門 官
		専 門 調 査 官
東 京 都（都 市 整 備 局）	－	局 長
		都 市 づ く り 政 策 部 長
		都 市 づ く り 政 策 部
		水 資 源・建 設 副 産 物 担 当 課 長
		○坂本 修
		今 長 岳 志
		溝 口 宏 樹
		柳 井 和 則
		長 谷 川 聡
		佐 藤 伸 朗
		久 保 田 浩 二
		高 橋 栄 二

◎運営委員長 ○運営副委員長

第42回「水の週間」ポスター

水循環基本法に基づき8月1日が「水の日」と定められました。8月1日～8月7日は「水の週間」です。

水は、 大切でした。

私は健康と美容を意識して毎日たくさんの水を飲みます。
改めて考えてみると、森や川などをめぐり、人を支え、
循環している水はとても大切な存在でした。
みなさんにとって、水はどんなものですか？

2018年日本「水の天使」
浦底里沙



「水の日・水の週間」関連情報はウェブサイトへ



<http://mizunohi.jp>

水の日

検索



主催：水循環政策本部、東京都、水の週間実行委員会ほか
後援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省ほか

「水の日・水の週間」に関するお問い合わせは、水の日実行委員会（東京都）へ。お問い合わせ先：水の日実行委員会事務局（東京都）

水の週間実行委員会事務局

〒330-6008 埼玉県さいたま市中央区新都心 11-2

独立行政法人水資源機構 総務部広報課内

TEL 048-600-6513 FAX 048-600-6510